

日本学術会議 心理学・教育学委員会

健康・医療と心理学分科会（第24期・第2回）議事要旨

日時 平成30年6月8日（金）15:30-17:30

場所 日本学術会議 5-C（2）会議室

出席委員 小西行郎、坂本真士、佐々木淳、佐藤隆夫、重野 純、鈴木伸一、住居広士、  
丹野義彦、箱田裕司、長谷川壽一、福山秀直、松井三枝（五十音順）

欠席 長田久雄

#### 審議事項

##### 1) 前回議事要旨の確認

了承された。

##### 2) 本分科会の今後の活動について

丹野委員長より、これまでのこの分科会のあり方を鑑み、24期の活動方針をいかにするかについて話題が提起され議論をすすめることとなった。引き続いて、本来公認心理師がやるべき仕事はまだ保険点数化されていないので、専門的な検査についても保険点数化したい旨の意見が述べられた。

小西委員より、科学的な根拠に基づく心理検査を実施する必要性や心理師のレベルがバラバラであることの指摘があった。

箱田委員より、公認心理師の入る5領域のうち、医学領域は精神医学に偏っており、小児科、神経内科、終末医療などにも公認心理師が入れるようにすべきとの指摘があった。

鈴木副委員長より、医療側に対し、心理職の受け皿を整備してほしいというメッセージを分科会として出すという提案がなされた。

松井委員より、認知の高次機能に興味を持つ医師は多いので、心理学が入っていける可能性が指摘された。

長谷川委員より、(先の小西委員の指摘に対し)心理師の質保証を実施すべきこと(認証制度)が提案された。

丹野委員長より、5領域ごとの質保証の必要性に関する提言を分科会では、という提案がなされた。

福山委員より、保険点数がつかないと、質保証に関する議論は難しいという意見が述べられた。そのためには、各学会における保険点数化に関する委員会に、心理学がアピールするのがよいのでは、という意見が出された。

住居委員より、学会と関係諸団体との連携をとるために学術会議が旗振り役をする必要があるという発言がなされた。

丹野委員長より、医療（精神医療に限らず）との連携はとりわけ重要であり、どうやって具体化するか、次回以降審議したいという提案がなされた。

### 3) 公認心理師の養成カリキュラムについて

丹野委員長より、公認心理師に関して5年後に見直しがあるが、具体的にどのような動きがあるのかを知っておく必要がある。次回の分科会では、公認心理師を所管する厚生労働省の担当者に来ていただき、話を伺いたいという提案がなされ、了承された。

### 4) 次回の予定

平成30年9月14日（金）を第一候補とし、招致する厚生労働省の関係者の都合等も勘案し、メール等で日程を決めることとした。

以上